

活動完了報告

「石見銀山国際音楽アカデミー2023 受講」活動助成

榊原 花梨

《報告および成果》

約 2 週間のアカデミーで計 7 回のレッスンと最終日に受講生コンサートを行なった。クラリネットは 6 名の受講生がおり、毎日他の 5 名の生徒のレッスンも聴講必須とされており、8 時～16 時までそれぞれが用意したソロ曲を受講した。最後の 2 日はピアニストとのレッスンをホールで行い、最終日は受講生コンサートがひらかれた。それぞれ曲も被らないような選曲になっていたため、7 回のレッスンで数多くの曲の解釈ができた。

注意された点としては、

- ・オーケストラの中では、自分のパートの楽譜が何をしているか(どういうダイナミクスでどういう動きをしているのか)他の楽器に見えるように演奏する事
 - ・もっと大袈裟に表現する事
 - ・最も大事なものはイントネーションとリズムである事
 - ・楽器を吹く時間以外を楽譜を読んで解釈の時間を増やすこと
 - ・f、mf、p で同じ響き、同じピッチになるような指遣いを各々考える事
- などがあった。

特に、ニコラ氏は変え指の種類が豊富で、音の響きや音程にとっても厳しく、今までに見たことのないような変え指を曲ごとに指導してもらった。ニコラというクラリネット界のスターの演奏を身近に聴けたのは大きな成果だと感じた。

また、最終日には、頻繁に使うことはないが、グリッサンド、ダブルタンギング、循環呼吸、フラッターなどの特殊奏法はできたら便利な場面もある、ということで、こちらにもレッスンがあった。

《今後の課題》

楽譜に書いてあることを細かく理解する、という事の大事さを改めて感じた講習会だった。毎回数多くのことを一度に指導され、瞬時についていけないことが多々あったので、頭の中を整理してすぐに要求に応えられるスキルと応用力がもっと必要だと感じた。

自分だけではなく、ほぼ全員がまずアンブシュアの基礎的なことをとても細かく注意された。個人個人の形というものがあって、そこを指導するのは少なくとも日本ではあまり見られる光景ではないが、音色に直結する部分ではあるので、そこを怖がらずにいじってみるといいかもしれないと感じた。

また、自分含め、やはり表現の幅が狭いと思った。技術的に完璧にすることはもちろんだが、おとなしい演

奏になりがちなところを、何がしたいのか相手に見える演奏をするべきだと思った。

楽器を吹いている時間だけが上手くなる方法ではないので、吹けない時間を楽譜を見てどう過ごすのか、アナリーゼの時間をもっと増やすような時間の使い方が必要だと感じた。

《その他》

YouTube に、ご報告 Vlog をアップしています。どうぞご覧ください。

<https://youtu.be/Ba-UpyHfumM?si=MYHoxYKXk4WoVdJn>

